

第1学年東組 図画工作科学学習指導案

「こすり出し模様の大変身！こすってうまれるわたしの世界！ ～うつしたかたちから～」

学習指導者 平井 千春 ・ 支援員 永井 愛実

1 学級（34名）の実態

（1）共に学びを進め合うことに関する学級の実態

質問紙調査の結果によると、「図画工作科の授業で、勉強が分からないときに違うやり方や考え方を試している」と答えた子供は26名であった。表したいことが見付からないと活動が止まったり、試行錯誤せずにすぐに満足したりと、自分から複数のことを試そうとしない子供が8名程いる。また、活動が止まっても何をどう聞けばよいか分からず自分から友達と関わることができなかつたり、自分でどんどん表したいことを見付けられるため友達と関わる必要感を感じていなかったりする子供もいる。

（2）本題材の学習に関する学級の実態

これまで、クレヨン、パスや色鉛筆を使って見付けたものや好きなものを描いたり、紙を破いた形から発想を広げたりする活動を経験している。その際、就学前の経験から、色を重ねて塗ったり、指で色を伸ばしたりと、複数の表現方法を知っている子供もいた。また、紙を破いた形から想像を広げる際には、いろいろ向きを変えて発想を広げる経験をしている。一方、破いた形が何に変身できるか見付けられなかつたり、最初に見付けた変身から発想が広がらなかつたりする子供が10名程いた。そのような子供たちも、教師が友達とつなぎ、友達の表していることを鑑賞することで、表したいことが広がる様子が見られた。

2 本題材で目指す「共に学びを進め合う子供」の姿と習得を目指す「解決する」方法

課題設定

設定した題材の目標の達成に向かって、必要なことを見付け、課題を設定する。②時の終わりには、模様から「ごつごつしていて好きだな」「桜の絨毯みたいだよ」などと豊かに感じたり想像したりしている友達の考えに触れ、「もっと模様を見付けたり、切ったり組み合わせたりするといろいろなものに変身させられそう」と気付いて、③時の課題を設定する。

解決の見通し

これまでに学習したことから使えることを選ぶ。③時では、こすり出す物、描画材料（クレヨン、パスや色鉛筆）や色、こすり出し方（向きを変える、重ねるなど）、切り方や組み合わせ方をいろいろ試すとさまざまな変身が見付かることを確認し、教師の模様を実際に変身させてみることで、具体的にどのように試すとよいかを共有して、解決の見通しをもつ。

解決

方法：「いろいろなやり方を試す」

いろいろなやり方を試すことで、できた模様の形や色の面白さに気付き、豊かに想像を広げたり表したいことを思い付いたりして、造形的な見方・考え方を広げながら、課題を解決していく。①②時では、こすり出す物、描画材料やその色、クレヨン、パスを寝かせてこする、向きを変えてこするなどのこすり出し方をたくさん試す。③④⑤時では、集めた模様の中から複数の模様や色、模様の切り方や組み合わせ方などを試したり、新たにこすり出し方を試したりする。例えば③時では、「側溝のあみあみを青色でこすり出した模様を四角く切ってみたよ」「氷みたいだね」「確かに。こっちは児童玄関の床をこすり出した模様だよ。とげとげに切ると恐竜の背中になった。氷の模様と組み合わせると、冰山の中にいる恐竜だ」「いいね。私の模様も見て」「カラフルな水玉模様がかわいいね。どこでこすり出したの」「先生のかごだよ。こんな模様のワンピースがあったらいいな」「オシャレだね。僕も水玉模様が欲しい。茶色と赤色と緑色でやると強そうになるかな。魚のうろこにも見えてきたよ」などと想像を膨らませ、いろいろな変身を思い付いていく。また、友達と関わることでよりいろいろな変身を思い付き、協働のよさを感じる。

振り返り

友達と自分の変身を見合い、お気に入りポイントを伝えたり、友達に価値づけてもらったりすることを通して、造形的な見方・考え方が広がったことやその理由を捉える。⑤時では、「カラフルなお花を並べて、ちょうちょもつくったよ」「夢の国のお花畑みたいで素敵」「いろいろ試すと素敵になった」などと、いろいろな変身を思い付いたことや、それによって作品がより素敵になったことを捉える。

3 達成意欲を高める目標共有の工夫 ①・②時

下に波段ボールを隠した白い紙を、教師がクレヨンでこすり、模様が浮かび上がる様子を見た子供たちは、凹凸をこすり出す活動に興味をもつだろう。そこで、まずは教室でいくつか凹凸のある物をこすり出して試す活動を行うことで、「物によってできる模様が全然違うんだ。もっといろいろな物をこすり出したい」という思いを高め、「こすり出し模様をたくさん集めよう」という題材の目標を設定する。「壁をこすり出すとふわふわした模様ができた。なんか好きだな」などと、こすり出してできる模様の造形的な面白さや楽しさを感じたり、「側溝の模様が亀の甲羅に見える」などと、模様からものや生き物などを想像したりしながらこすり出す活動を行う。②時の後半に、豊かに感じたり想像したりしている子供や、「この模様のワンピースがあつたらいいな」などと模様を何かに変身させることを思い付いている子供の発言を全体で共有するとともに、教師が模様から切り出したり、組み合わせたりして変身させる様子を見せることで、「集めた模様をいろいろなものに変身させられそう」という発展の可能性に気づき、「こすり出し模様をいろいろ変身させよう」と目標を再設定する。

4 題材計画と方法の習得の段階に合わせた手立て（本時 3/5）

次	題材計画	方法の習得の段階に合わせた手立て
一	①② こすり出し模様をたくさん集めよう 題材の目標及び課題を設定後、前題材で認知した解決する方法を想起し、本題材では、こすり出す物や色などを試すとよいことを共通理解する。思い付いたことをどんどん試し、「紙や描画材料の使う向きを変える」「色を変える」「色や模様を重ねてこすり出す」など、いろいろなやり方を見付け、さらに試していく。①時の途中で、いろいろなやり方を見付けている友達の模様をみんなで鑑賞し、工夫してこすり出す。②時の後半に、自分が集めた模様をじっくり見返したり、友達の模様を鑑賞したりしながら、感じたり想像したりしたことを交流する。模様から豊かに発想している友達の考えを聞いたり、実際に教師の模様の変身したモデルを見たりし、目標を再設定する。その後、前題材でどんな形が何に変身するかいろいろ考えると作品がよりよくなったことを振り返ったり、実際にいくつかの模様から切り出しているいろいろな変身を考えてみたりすることで、「何に変身できるかいろいろ見付けたい」という思いを高めて③時の課題を設定する。	【認知段階】 前題材「やぶいたかたちから」で、全体で一つの紙をいろいろな向きで見てどんなものに見えるか一緒に考える経験をすることで、「いろいろなやり方を試す」という方法を教示している。またその際、複数のやり方を試すと、表したいことがたくさん見付き、自分の作品がどんどんよくなってわくわくするというよさも共有している。①時に、本題材では、こすり出すもの、描画材料や色、こすり出す向きや重ね方などを試すとよいこと、②時の終わりに、切り方や組み合わせ方も試すとよいことを共有する。
	③④⑤ こすり出した模様をいろいろ変身させよう 前時の学習を振り返り、学習課題を確認する。模様を切る、組み合わせる、新たにこすり出すなどし、いろいろなやり方（こすり出す物、描画材料や色、紙や描画材料の向き、重ね方などのこすり出し方や、切り方、組み合わせ方など）をどんどん試してつくり、つくりかえながら、模様をいろいろ変身させる。「緑色の側溝の模様が亀の甲羅に見えたよ。向きを変えて、青色で重ねてこすってみよう。きれいな亀になった。いろいろな甲羅の亀をつくってみよう」「アスファルトを赤色でこすり出した模様がお気に入りだよ。丸く切ってみよう。真っ赤に燃える夕日みたい」などと、豊かに発想している友達の変身や試し方を、③時の途中で、知ることでさらに発想を広げ、いろいろな変身を見付けていく。③時の終わりに、いくつかの変身が集まって一つの世界になっている子供を全体で紹介するなどし、④⑤時は、さらに活動を広げて、思い付いた自分の世界を表すことを共有する。友達と交流しながら発想を広げたり、表したいことが合致したら共同で表したりしながら作品づくりを行う。最後に、互いの作品を鑑賞し合い、題材全体の振り返りをする。	【想起段階】 解決の見通しの際に、「どうすれば、いろいろ変身させられるかな」などと問いかけ、方法を想起できるようにする。何をすればよいか分かっていなかったり、少し試して満足しているなど、方法を使えていない子供には、子供たちがしていたいろいろなこすり出し方の掲示や、方法を使って変身をたくさん思い付いている子供への注目を促し、方法を想起できるようにする。

5 本時の学習

目標	様々なこすり出し方や切り方、組み合わせ方を試しながら想像を広げ、いろいろな変身を見付けることができる。
----	---

学習活動	主な子供の意識
1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。	前の時間は、たくさんこすり出して模様を集めたね。好きな模様が見付かったよ。いろいろなものに見えてきたね。 模様を切ったり組み合わせたりして想像を広げると、模様が変身するね。今日は、模様をいろいろなものに変身させるんだったね。 こすり出した模様をいろいろ変身させよう
2 活動の見通しをもつ。	いろいろ変身させるには、いろいろなやり方を試すといいね。今日は、模様の切り方、組み合わせ方、こすり出し方などを試すとよさそうだよ。 私は、先生のかごをこすり出した水玉模様が魚のうろこに見えたよ。魚の形に切ってみよう。 僕は、このごつごつ模様が好きだから、これを変身させたい。ぎざぎざに切るとどうなるかな。
3 いろいろなやり方を試して模様を変身させる (1) 個人または自由交流	A 魚の形に切るといい感じ。こっちの模様も魚の形に切ってみよう。 B いろんな魚がいるね。私は、アスファルトを色を重ねてこすった模様を、ドレスに変身させたよ。 A 色を重ねるときれい。かごでもできそう。私は赤色と桃色でこすり出して、魚の形に切ってみよう。 B カラフルな魚がいっぱい。水族館みたいだね。次はどうしよう。 C ごつごつ模様をぎざぎざに切ると、強そうな形ができた。今度は丸く切ってみよう。 D 丸いのは亀の甲羅みたいだね。 C うん。僕は恐竜の背中にも見えたよ。ぎざぎざは、鳥の羽や、草むらに変身しそう。 C 見て見て。こっちの茶色で壁をこすり出した模様は三角に切ると火山みたい。他の人の変身も見たい。
(2) 全体交流	E さんは、いろいろな模様をいろいろな大きさで丸く切って、重ねて貼っているよ。その周りに三角の形を組み合わせ、太陽に変身させたんだって。まだ試していないやり方をもっと試して、もっといろいろ変身させよう。
(3) 個人または自由交流	魚のうろこもいろんな模様を重ねて貼ってみよう。 ぎざぎざと細長い丸を組み合わせると空飛ぶ恐竜に変身したよ。
4 活動を振り返り、次時の見通しをもつ。 (1) 全体交流 (2) ペア (3) 全体交流	いろいろなやり方を試せたよ。友達と一緒に試すと、自分とは違った模様や変身が見付かってよかったよ。もっと他のみんなの模様も見てみたいな。 A 壁を黄色と桃色と紫色のグラデーションでこすったら、カラフルな魚に変身したよ。最初は一枚の模様で変身させていたけど、模様を重ねるともっと素敵な魚になったよ。 C カラフルな魚がいっぱいで水族館みたいだね。僕は、亀や空飛ぶ恐竜、鳥、火山、いろいろな変身が見付かったよ。 いろいろ変身させて組み合わせると、一つの世界になってきた。まだやりたいことがたくさんあるよ。次もいろいろ試して、もっと世界を広げよう。

評価	友達と関わりながら新たにこすり出したり、切り方や組み合わせ方をいろいろ試したりし、どんどん想像を広げて模様をいろいろ変身させようとしている。 【方法：発言、様相、表現物】
----	---

～ 課題設定 ～ 学習活動 1

前時の終わりに、模様から豊かに発想を広げている子供の考えを全体交流で広げたり、教師のモデルを見たりすることで、模様をいろいろなものに変身させられそうだとすることに気付き、目標の再設定及び本時の学習課題の設定をしている。前時の活動の様子をモニターで示しながら振り返ることで、学習課題を確かめ、課題を解決したいという思いを高める。

～ 解決の見通し～ 学習活動 2

前題材や前時に子供たちがしていた様々なやり方をまとめた「アイデアの引き出し」を示しながら、「どうすれば、いろいろと変身させられるかな」と問いかけ「解決する」方法を想起する。また、前時に課題設定をした際に見た教師の模様の変身を振り返り、教師は何をどのように試したのか全体で確認することで、「アイデアの引き出し」の中から使いたいものを選んでどんどん試したり、新たなやり方を見付けたりするとよいことを理解できるようにし、変身させたい模様や試してみたいことを友達と交流して具体的な見通しをもてるようにする。☑試したいことが思い付かない子供と一緒に掲示物を見て試したいことを考える。



【アイデアの引き出しの一部】

～ 解 決 ～ 学習活動 3

模様を切る、組み合わせる、新たに凹凸をこすり出すなどして、こすり出した模様を変身させる活動を行う。思い付いたことをどんどん試すことができるように、こすり出す紙はこすり出す場にたくさん置いておき、自由に取りに来れるようにしておく。また、教師が集めた模様を「お宝ボックス」に入れておき、自由に使えるようにしておく。活動開始時には、違う模様を集めている子供同士や豊かに発想できる子供と表したいことが見付きにくい子供が近くで活動できるように座席を配置し、友達の模様や活動から発想を得ることができるようにする。また、自由に移動して交流してよいことを共有しておく。友達の変身を見たり、友達と話したりすることで、新たな表し方を見付けたり、自分と違う想像をしている友達の考えの面白さに気付いたりして、発想を広げている子供たちの関わりを教師が価値付けることで協働のよさを感じられるようにする。途中で、「見て！見せて！教えて！タイム」として、発想が広がらずに困っている子供を全体で取り上げてみんなで考えたり、他の子供がしていない表し方で変身させるなど、いろいろ発想を広げて変身させている子供の活動を全体交流で広げたりする。そうすることで、「アイデアの引き出し」を増やしたり、自分にはなかった試し方に気付いたりし、友達と関わる必要感を感じながら、いろいろ試して豊かに発想を広げたりすることができるようにする。また教室には、「変身の引き出し」を掲示しておき、次に試したいことが見付からない子供や、発想が広がらない子供がいつでも見に来られるようにしておく。困っているけれど、どう聞けばよいか分からない子供に対しては、教師が子供同士をつなぎ、一緒に関わったり、「図工の学び合い」の掲示と一緒に確認したりすることで、友達と関わりやすくする。☑授業者とともに、方法の想起を促したり、価値付けたり、子供同士をつないだりする言葉かけを行う。また、新たにこすり出すために、凹凸を探しに出かける子供について行き、価値付けたり、時間の見通しをもたせたりする。



【変身の例】

～ 振り返り ～ 学習活動 4

いろいろなやり方を試して豊かに変身させている子供を指名し、教師が、お気に入りポイントとその理由についてインタビューをする。その後、ペアと自分のお気に入りポイントを紹介し合ったり、価値付け合ったりすることで、自分の作品がよりよくなったことを捉えられるようにする。最後に、変身を組み合わせ一つの世界のようになってきている子供の表現物や教師のモデルを紹介し、次はもっと変身を広げて自分の世界を表していくという見通しをもてるようにする。☑ お気に入りポイントを見付けられていなかったり、対話が止まっていたりする子供に対して、その子の作品や学び方（いろいろなやり方を試していたことや友達と関わっていたこと）を価値付ける声かけを行う。

